

2024 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

会議名	2024 年度 第 1 回学校関係者評価委員会																											
開催日時	2024 年 5 月 17 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分																											
会 場	東京バイオテクノロジー専門学校 本校舎 2F 教室 (A22 教室) 東京都大田区北糀谷 1-3-14																											
参加者	<table><tr><td>区分</td><td>氏名</td><td>所属</td><td>役職</td></tr><tr><td>高等学校代表</td><td>森 章</td><td>拓殖大学紅陵高等学校</td><td>学校長</td></tr><tr><td>保護者代表</td><td>関口 和也</td><td>バイオテクノロジー科 4 年制 3 年保護者</td><td></td></tr><tr><td>卒業生代表</td><td>有賀 春夫</td><td>ユニオンケミカル(株)</td><td>営業部長</td></tr><tr><td>地域関係者</td><td>加世田 光義</td><td>おおた農水産業研究会</td><td>会長</td></tr><tr><td>業界関係者</td><td>池田 昭</td><td>(有)オフィスワーク</td><td>プロジェクター</td></tr></table> 【学園・学校関係出席者】 中村 道雄 学校法人 東京滋慶学園 理事長 岩村 勇 学校法人 東京滋慶学園 評議員 大谷 啓一 東京バイオテクノロジー専門学校 学校長 関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 運営副本部長 居関 暁昌 東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長 松本 靖子 東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長代理 代田 望都 東京バイオテクノロジー専門学校 広報副センター長 杉田 佑輔 東京バイオテクノロジー専門学校 産学連携・新規事業センター長 野崎 淳一 東京バイオテクノロジー専門学校 キャリアセンター長 内沢 淑子 東京バイオテクノロジー専門学校 学生サービスセンター長				区分	氏名	所属	役職	高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	学校長	保護者代表	関口 和也	バイオテクノロジー科 4 年制 3 年保護者		卒業生代表	有賀 春夫	ユニオンケミカル(株)	営業部長	地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長	業界関係者	池田 昭	(有)オフィスワーク	プロジェクター
区分	氏名	所属	役職																									
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	学校長																									
保護者代表	関口 和也	バイオテクノロジー科 4 年制 3 年保護者																										
卒業生代表	有賀 春夫	ユニオンケミカル(株)	営業部長																									
地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長																									
業界関係者	池田 昭	(有)オフィスワーク	プロジェクター																									
議題	1. 開会挨拶 2. 委員の紹介・学校側紹介 3. 本委員の主旨説明 4. 2023 年度の自己評価国目と評価内容のポイント説明 5. 2024 年度の重点項目と説明 6. 産学連携の報告 7. 質疑応答・意見交換 8. 評価シートの記入方法説明と評価表記入 9. 閉会挨拶																											

1. 開会挨拶（学校長 大谷）

1988 年創立、35 周年。職業人教育について社会に貢献する。学校の活動運営に助力頂ければと思います。

2. 委員の紹介・学校側紹介

前年より委員変更がないため、学校側のみ紹介

【委員】吉岡委員（高等学校関係者）所用により欠席

3. 主旨説明（事務局長 居関）

専門学校とは高専、一般課程、専修学校専門課程（専門学校）2693 校、前年より 100 校減少状況にある。1110 校職業実践専門課程。本校は 4 年制が対象。職業実践専門課程、専門学校の中でもより実践的、より高度な専門的授業を行っている学校が認定され、①業界、企業と参画してカリキュラムを構築していく。②企業と連携して演習、実習をしている。③教員研修をしている。④企業などを参画して学校評価をしている。⑤学校の情報公開をしている。5 つの条件がある。

自己点検・自己評価は、10 項目について本校の取り組みについて点検、評価の結果をお伝えし、この場で意見などを頂き、学校教育に反映をさせる。そのため学園でも今回の本委員会は重要だと位置付けている。

4. 2023 年度の自己評価項目と評価内容のポイント説明

【基準 1（教育理念・目的・養成人材像）】（事務局長 居関）

「職業人教育を通じて社会に貢献をしていく」をミッションに掲げ、3 つの建学の理念に基づいて、カリキュラムを作成。4 つの信頼を掲げ、裏切らない運営をしている。

学生配布の学生便覧には、養成目的、目標、カリキュラムを明確に定め、活用をしている。

【基準 2（学校運営）】

事業計画を定め、組織目的、運営方針、計画体系を示している。収支計算についても単年度ではなく、中長期の計画をたて実行している。

事業計画についての説明。

- ① 組織目的 企業連携とインターンシップを軸とした産官学連携教育で第 5 次産業革命の中核を担う人材を養成することで、明るく豊かに暮らせる未来を創出する
- ② 運営方針 大学教育では実現できない東京バイオにしかできない学びを創造する
- ③ 職務分掌、意思決定の流れ、職員の評価体系、収支計算などを決定していく

【基準 3（教育活動）】 （教務部長代理 松本）

人間教育：業界で活躍できる職業人を育成する仕組みとして、導入教育、キャリア教育、卒業までのフロー教育の実施。

実学教育：業界とともに学生が活躍できる仕組みとして、長期インターンシップを実施。アカデミアでの学会発表、論文投稿に掲載がされた。産学連携による卒業研究 4 つの商品開発ができた。

【基準 5（学生支援）】

2023 年度卒業生 4 年制 57 名、3 年制 68 名

4 年制：41 名就職者/41 名就職希望者（100%）、大学院進学 8 名

（東京、富山、横浜市立、順天堂、北里、帝京）

3 年制：61 名就職者/61 名就職希望者（100%）

学内フローとして、就職対策講座、就職スタート式、模擬面接、身だしなみ講座実施。学内企業説明会、面接練習、就職先の求められる人材と学生とのマッチングを実施している。

大学院進学者の対応としては、進学先別の対策（東大 TOEIC など）、インターンシップ先のマッチングで、齟齬のないマッチングを実施している。

2023 年度進級率 111 名/128 名（87%）

進級できない 17 名（退学 11 名・留年 6 名）

退学理由として固有の問題（精神、発達、病気など）とそこから派生するクラス不適応

学生相談室（SSC）火曜日午後に設置。学校担当のカウンセラー以外のカウンセラーとも併用して連携。留学生・学費は、学生サービスセンター（事務）と連携。保護者との連携、個別面談、担任との連携し、各方面より学生自身の生活部分のサポートをしている。

【基準 6（教育環境）】

ICT 環境の整備（teams の導入・学生ポータルサイト・安否確認システム）

Teams：授業・学校生活のツールとして活用

学生ポータルサイト：出席、成績状況の確認、各種申請

安否確認システム：災害時等の情報収集ツール

安全管理として、入館時のセキュリティーシステムの導入、実習での応急対処法、年 1 回の防災訓練を実施。

学生の現場力の向上のため、実践力を身に着ける環境、130 件以上の研修先、（研究機関、大学、企業など）。複数の産学協働研究の連携先を設けている。

2023 年度は、紛争、金額高騰もあり実施できてはいないが、オンラインにて授業を実施した。実現可能なプログラムを構築していく。

【基準 4（学修成果）】 キャリアセンター長 野崎

卒年次就職支援報告

キャリアセンターにて就職活動報告を本部にて集約。

毎月の求人数、内定数、内定シュミレーションの報告をしている。

離職率調査 2022 年度卒業生対象の離職率 88 名中 1 名離職（1.1%）

要因：精神的、体力的に健康を損ねた

資格取得の支援

授業内外での資格取得対策を実施。取得率 100%を目指している。

実験動物 1 級技術者認定試験、細胞培養士コース I は学生のモチベーションを高める資格の 1 つとなっている。中級バイオ技術者認定試験は全国 3 位以内で複数の学生が表彰を受けている。

卒業生の活躍 2009 年度卒業ベンチャーウイスキー大島弘也さん動画視聴

【基準 7（学生募集）】 広報副センター長 代田

募集要項に基づいた選考方法で実施。学費情報の HP にも掲載。

大学と検討中の学生が対象なるが、大学全入時代となる学校の課題として大学志望層への認知拡大。志望度を上げる取り組みとして、来校型オープンキャンパス、ライブ配信型オープンキャンパスを実施し、入学生の早期獲得を目指す。

また、進学媒体や WEB 検索における表示順 NO.1 獲得の構造作り、大学志望層の価値に答えるオープンキャンパスにし、大学と徹底比較をした情報を提供。具体的な職業像がイメージできる動画視聴後、実習に入る。ライン登録者のみ視聴ができるライブ配信型オープンキャンパスや、高専連携で早期の接触（出張授業、来校授業、研究協力）などで認知拡大を図っている

【基準 8（財務）】 （事務局長 居関）

株式会社滋慶サービスが学校の予算執行管理をしている。

事業計画をもとに運営をしており、財務について監事監査も受けている。

年度ごとの事業報告書・財産目録・財務諸表を、学校の情報公開ページにて公開をしている。

【基準 9（法令遵守）】

個人情報保護基本規定を定めおり、規定に基づいて学校運営をしている。

学校の情報公開にて公開している。

【基準 10・11（社会貢献・地域貢献）（国際交流）】

産学連携での学生の関わりや、社会人講座の実施で貢献ができています。

海外研修は、社会情勢により決行できず、2023 年度はオンラインで実施。2024 年度は実施を進めていく。

5. 2024 年度の重点目標と説明 (事務局長 居関)

大学教育では実現できない東京バイオにしかできない学びを創造する

- ・新規学科の構想

バイオ×IT・WEBの学び

高等課程と専門課程の連携した学び

- ・教育内容＋就職実績＝広報で大学に負けない広報を実現する
- ・社会人講座を新規事業として成立させることで学校のブランド力、ネットワーク力を強化する

6. 産学連携の報告 (産学連携・新規事業センター長 杉田)

2023 年度産学連携による商品開発の 4 つの事例

1. (株)若松×東京都北区観光協会 渋沢栄一新札発行記念清酒 飛栄
2. HANEDA SKY BREWING 大東京東京に住まうミツバチ TONY (ビール)
3. (株)エイジェック 疲労回復・体づくりに向けたアスリート向けジェラード
4. 日鉄興和不動産×&Here 上野 ホテルフレグランス

商品開発を通して自ら商品力を高める情報収集と販売戦略を構築できることを目標としている。カリキュラムに適度な緊張感、責任感、本気で取り組む環境が自信や誇りに繋がる。今回はメディアを迎えるという工夫をした。

2024 年度からの取り組み

山形県鶴岡市だだちゃ豆を使ったご当地ビールを作る。物流、人流両面の促進を通じて、だだちゃ豆の認知度向上を目指し、空港での販売も視野に入れている。

社会人講座

2023 年度ワイン講座を実施。参加者ソムリエ 2 名。ぶどう搾取からのカリキュラムは他になく、また、増子先生以外にも他の醸造家、卒業生との繋がりで実施ができ、好評だった。

2024 年度はワイン講座のほかビール講座も合わせて開講する。

7. 質疑応答・意見交換

有賀委員

卒業生で、カリキュラムが豊富で多くの学びができる。若い人のコミュニケーション力の不足をしている中、コミュニケーション力をもっと向上できるとよいと感じる。

関口委員

バイオの卒業生が会社を支えてくれている。

森委員

18 歳人口減少。15 歳人口も激減をしている。千葉県の高등학교 3/5 定員割れ。都市部は定員充足。学校認知がされている学校は定員充足している。コロナの

影響でオンラインが急速し、対人とのコミュニケーション能力が欠けてきている。このような中でどのような学生を確保していくか。生活指導が厳しい学校ですが、このような中でも定員充足ができた。指導をきちんとしてくれることが父母の安心、信頼を獲得できているのではないかと自信を持っている。内容に見合った学習、価値があることが大事。

加世田さん

機械系、農業系で6次産業の生み出しができないかと考えている。量産、販売先の検討。日本だけでなく海外にも拡大をしている。海外から人を招いての勉強会も必要なのではと思う。

池田委員

産学連携は大学より先端をいっていると思う。なんとなく大学、就職をしていく中で、実験が好きという学生にとっては、専門学校はよい。

8. 評価シートの記入方法と評価表記入

評価方法の記入説明。評価表を記入して頂き、提出の依頼。

手元資料の自己報告書の評価項目65項目の小項目に沿って、2023年度の自己点検・自己評価を4月15日に実施しました。今回は第2次評価として、各委員の方には、全11項目の大項目（A3シート）の評価とご意見を頂きます。

評価は3点満点評価。A3シート左側には、自己点検評価を記載しております。右側の欄に大項目に対しての評価、改善点、よい点がありましたら、できるだけ記入をお願いします。

9. 閉会挨拶（中村理事長）

貴重なご意見いただき、ありがとうございました。

欠席の方にもきちんとお伝えをし、意見を賜り、運営に反映させていきたい。専門学校の中でも定員が充足できない学校もある。学校の情報公開をすることができない学校もある中、委員の方の協力のおかげと考える。

今後とも、ご指導ください。

◆評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組み落としていく。

卒業して業界で働いた時に、技術、知識の学び以外にも、コミュニケーション力、人間力も在学中に備えていけるように、フロー作成し、現在、検証をしている部分でもあるので、ブラッシュアップを図っていく。